

ちんと対応ができないというのが、自然災害の特徴だという気がするのです。ですから時間はものすごく長い時間で見ていないといけないのです。その場、その場の損得や、言い伝えがあるとかないとかでやっていると、もうそれ自身が次の災害の準備になってしまふというくらい、やっぱり真剣に考えなくてはいけない事なのです。それを考える時には、起こった自然災害をやはり次の世代にもその次にも、さつき言った「電信柱にペンキを塗れよ」と言ったような事を文化としてやっていくようなものが必要なのではないかという感じがしています。

【小出】 今の津波の写真を見て私も本当に衝撃を受けまして、あんなに素晴らしいというか、あんなに凄まじい災害を表現する写真があったかと。私もずっと災害の分野をやっていましたけれども、あのような写真があるなんて、本当に知りませんでしたので、もう明日にでも飛んでいって、あの村の方々にあの写真をもらいたいくらいでして、被災前、被災直後、そして、現在の写真が欲しいです。さらに聞いた話ですが、かなり大きな津波堤防を今造っているらしく「おいおい待てよ、本当にそういう刑務所の堀の中に生きた方がいいのかね。」という事を、住んでいる人と議論してみたい。

【畠村】 それは、もうぜひ早くおやりになるといいです。実はあれと同じ角度から撮った「一年後」というのがあったのですが、今日は切ってきたのです。惜しいことをしました。もう家が建ち始めているので、今、同じ角度の所から写真を撮ったら、もう家がいっぱいになっているはずです。

少し話が違うのですが、津波が起こると防潮堤を造りたくなるというのは、ものすごくわかるけれど、それ自身が全部を駄目にしてしまうというのが、奥尻島で起こっているのです。今から15年位前に奥尻島は、すごい津波が来て人が死にました。そして、あれをどうするかという対策をうたったのは、写真で見たのですが、信じられないけど、高さ10メートルくらいあるような、すごい防潮堤が1キロ以上ずっと続いているのです。それで安心だと、造った時はみんな喜んだというのですね。ところが、本当

に防潮堤を造ってみたら、海との間が遮断されたので、海岸としての意味が全然なくなつたと言うのです。そうだとすると、そんなものを造った事が本当に正しいのだろうかと言うと、たぶん僕は間違いだというふうに、もう思っているのです。

そして、今、何に使っているかというと、過疎で6000人いたのが3000人か4000人までに人数が減つてしまつて、それでも何か行事をやろうというので、日曜日に堤防の下の所で朝市をやるくらいしか使い道がありませんと。何百億使ったのかは知らないけれど、朝市やるのにそんなものを造つてどうするつもりだという話をしました。

そうしたら、もっと衝撃的だったのは、奥尻島での津波が起つた時の映像を持っている事をNHKの人が教えてくれたのです。これをしゃべつていいかと聞いたらいいという事なので、お話ししますが、その映像は放送ができないのです。何故かというと、たまたまNHKの人たちが環境保護の映像を撮りに行っている時に地震が起ります。地震が起つた時に泊まっていた民宿のおばさんが、秋田沖の地震の時に津波被害に遭つた経験があり、「この地震は必ず津波が来るからすぐにジープに乗つて逃げろ」と言った。そこで、何の事かわからないけれども、とにかく高い所に逃げろと言われたからジープで走つて逃げたのです。その時にカメラマンがプロで、乗つた時から全て照明を当てて、周りの人の動きを全部撮っていました。それを見ていると、みんな津波が来るかもしれないという知識を持っているから逃げようとするけれども、本気じゃないのですね。楽しそうに今から遊びに行くような様子でゆっくり歩いているのですね。そして、そのまま映像を撮つていると、向こうから黒いものが見えかかったなと思った時に、いきなりそのジープはハンドルをきつて、高い方に逃げたのです。何だったかというと、津波が真ん前から来たと言うのですよ。映像として、きちんと撮れていないけれど、それで逃げたと。津波が後ろからどんどん追いかけて来るけれども、高見まで登れたから自分たちは命が助かりましたと。ところがその間に撮つた人が全部死にましたと。だから、ここに映つてゐる人は全部死んでしまつたので、この映像は記録としてはとつてあるけれども、放映禁止というラベルが貼つてあるのです。